< 三角関数と双曲線関数の融合域 その3 >

新種と考えられる積分式が得られたので、下方に<u>青色で</u>示した。これまでのものと共に示したが、紙幅を節約したいので、任意のaがない特殊ケースのものは省いた。

また、これまで後半で[$ma-\sim$]で示していた式番号は、全体の整合性からすべて[$Ia-\sim$] で置き直したので、ご了解いただきたい。

今回は本質的に同値のものも含めて示した。同値関係は赤字で記載。今後どう展開するかわからないので、 一応両方とも示した。

下記に関し、双曲線関数 sinh, cosh, tanh はそれぞれ <u>sh, ch, th と略記</u>した。例えば、<u>sh2a は sinh (2a) のこと</u>である。log は自然対数。tan⁻¹, tanh⁻¹はそれぞれ arctan, arctanh。L (1)、L (2)、Z (2) は次のものである。

$$L(1) = 1 - 1/3 + 1/5 - 1/7 + \cdots = \pi/4$$

$$L(2) = 1 - 1/3^2 + 1/5^2 - 1/7^2 + \cdots = 0.91596559 \cdots = カタランの定数$$

$$Z(2) = (3/4) \zeta(2) = 1 + 1/3^2 + 1/5^2 + 1/7^2 + \cdot \cdot = \pi^2/8$$

Z(s) は、私が独自に使っているもので、 $Z(s) = 1 + 1/3^s + 1/5^s + 1/7^s + \cdot \cdot = (1-1/2^s) \zeta(s)$ であり、本質的に $\underline{\zeta(s)}$ そのものである。

く 積分式 > (任意の a がない特殊ケースのものは省いた)

$$\log 2 = ((a^2+1)/2) \int_0^\infty \frac{\sin x}{\cosh x + \cos x} dx \qquad -----[A3]$$

$$\log 2 = ((a^2+1)/(2a)) \int_0^\infty \left\{ 1 - \left(\frac{\text{shax}}{\text{chax+cosx}} \right) \right\} dx \quad ----[A4]$$
(a は 0 より大きい任意の実数)

$$\log 2 = ((a^2-1)/2) \int_0^\infty \frac{\sinh x}{\cosh x + \cosh x} dx$$
 -----[A5] (a は 1 より大きい任意の実数)

$$\log 2 = ((a^2-1)/(2a)) \int_0^\infty \left\{ 1 - \left(\frac{\text{shax}}{\text{chax+chx}} \right) \right\} dx$$
 -----[A6]
 $(a は 1 より大きい任意の実数)$

$$\pi = \int_0^\infty (1/a) \log \left(\frac{\text{chx} + \text{sina}}{\text{chx} - \text{sina}} \right) dx$$
 -----[B3]
 (a は $0 < |a| \le \pi/2$ を満たす任意の実数。 $a \to 0$ でも式は成立。)

$$L(1)=\pi/4=(a^2+1)\int_0^\infty \frac{\sin x \cdot \sin x}{\cosh 2ax + \cos 2x} dx$$
 -----[B4] (a は 0 より大きい任意の実数)

$$L(1)=\pi/4=((a^2+1)/a)\int_0^\infty \frac{\cos x \cdot \cos x}{\cosh 2ax + \cos 2x} dx$$
 -----[B5] (a は 0 より大きい任意の実数)

$$L(1) = \pi/4 = (a^2 - 1) \int_0^\infty \frac{\text{shx*shax}}{\text{ch2ax+ch2x}} dx$$
 -----[B6]

$$L(1)=\pi/4=((a^2-1)/a)$$
 $\int_0^\infty \frac{\text{chx・chax}}{\text{ch2ax+ch2x}} dx$ -----[B7]

$$Z(2) = \pi^2/8 = ((a^2+1)/2) \int_0^\infty \tan^{-1} \left(\frac{\sin x}{\sin x}\right) dx$$
 ------[C8]

$$Z(2) = \pi^2/8 = ((a^2+1)/(4a)) \int_0^\infty \log \left(\frac{\text{chax} + \cos x}{\text{chax} - \cos x}\right) dx$$
 ------[C9]

$$Z(2) = \pi^2/8 = ((a^2 - 1)/2) \int_0^\infty th^{-1} \left(\frac{shx}{shax}\right) dx$$
 ------[C10]

$$Z(2) = \pi^2/8 = ((a^2-1)/(4a)) \int_0^\infty \log \left(\frac{\text{chax+chx}}{\text{chax-chx}}\right) dx$$
 ------[C12]

$$\zeta(2)=1+\frac{1}{2^2}+\frac{1}{3^2}+\frac{1}{4^2}+$$
・・ $=\pi^2/6=((a^2-1)/(2a))\int_0^\infty \{ax-\log(2(chax-chx))\}dx$ ---[C13] (aは1より大きい任意の実数)

$$\zeta(2)$$
/2= $1-\frac{1}{2^2}+\frac{1}{3^2}-\frac{1}{4^2}+-$ ・・ $=\pi^2/12=((a^2-1)/(2a))\int_0^\infty \{-ax+\log(2(chax+chx))\}dx$ --[C14] (a は 1 より大きい任意の実数)

$$\xi(2) = 1 + \frac{1}{2^2} + \frac{1}{3^2} + \frac{1}{4^2} + \cdot \cdot = \pi^2/6 = ((a^2 + 1)/(2a)) \int_0^\infty \{ax - \log(2(chax - cosx))\} dx ---[C15]$$

$$\zeta(2)=1+\frac{1}{2^2}+\frac{1}{3^2}+\frac{1}{4^2}+$$
・・ $=\pi^2/6=((a^2+1)/a)\int_0^\infty \{-ax+\log(2(chax+cosx))\}dx$ ----[C16] (a は 0 より大きい任意の実数)

$$L(2) = ((a^2-1)/2) \int_0^\infty \tan^{-1} \left(\frac{\sinh x}{\cosh x}\right) dx \qquad ------[D7]$$
(a は、|a|が 1 より大きい任意の実数)

$$L(2) = ((a^2+1)/(2a)) \int_0^\infty \tan^{-1} \left(\frac{\cos x}{\sin x}\right) dx$$
 ------[D9]

$$L(2) = ((a^2-1)/(2a)) \int_0^\infty \tan^{-1} \left(\frac{\text{chx}}{\text{shax}}\right) dx$$
 ------[D10]
 $(a \ \text{は、} |a| \text{が 1 より大きい任意の実数})$

$$L(2) = ((a^2+1)/4) \int_0^\infty \log \left(\frac{\text{chax} + \sin x}{\text{chax} - \sin x} \right) dx$$
 ------[D11] (a は 0 でない任意の実数)

[上記のカテゴリーに入らないもの]

$$\frac{\pi/(2a)}{\operatorname{ch}(\pi/(2a))} = \int_0^\infty \frac{\cos x}{\operatorname{chax}} dx \qquad -------[E1]$$
(a は 0 より大きい任意の実数)

$$(\pi/(2a))$$
th $(\pi/(2a))$ = $\int_0^\infty \frac{\sin x}{\sin x} dx$ ------[E2]
 (a は 0 より大きい任意の実数)

$$2\left\{\frac{1}{(1a)^{2}+1}-\frac{1}{(3a)^{2}+1}+\frac{1}{(5a)^{2}+1}-\frac{1}{(7a)^{2}+1}+-\cdot\cdot\right\} = \int_{0}^{\infty} \frac{\sin x}{\cosh x} dx \quad -----[E3]$$
(a は 0 でない任意の実数)

$$a(2\pi-a)/2 = \int_0^\infty \log\left(\frac{\text{chx-cosa}}{\text{chx-1}}\right) dx \qquad \qquad -----[I a-1]$$

$$(a は 0 \le a \le 2\pi$$
 を満たす任意の実数)

$$\frac{\cos a}{1^3} + \frac{\cos 3a}{3^3} + \frac{\cos 5a}{5^3} + \frac{\cos 7a}{7^3} + \cdot \cdot = \int_0^\infty \left(\frac{x}{4}\right) \log \left(\frac{\cosh + \cos a}{\cosh - \cos a}\right) dx$$
 -----[I a-2]
(a は任意の実数。cosa はcos(a) のこと)

$$\frac{\cos a}{1^3} + \frac{\cos 3a}{3^3} + \frac{\cos 5a}{5^3} + \frac{\cos 7a}{7^3} + \cdot \cdot = \int_0^\infty \frac{\cos a \cdot x^2 \cdot shx}{2(ch2x - cos2a)} dx$$
 ----[I a-2-2] (a は任意の実数) 注意:この式は[I a - 2]と本質的に同値である

$$\frac{\sin a}{1^2} + \frac{\sin 3a}{3^2} + \frac{\sin 5a}{5^2} + \frac{\sin 7a}{7^2} + \cdot \cdot = \int_0^\infty \frac{\sin a \cdot x \cdot chx}{ch2x - cos2a} dx$$
 -----[I a-3] (a は任意の実数) 注意:この式は[I a - 3 - 2]と本質的に同値である

$$\frac{\sin a}{1^2} + \frac{\sin 3a}{3^2} + \frac{\sin 5a}{5^2} + \frac{\sin 7a}{7^2} + \cdot \cdot = \int_0^\infty \left(\frac{1}{2}\right) \tan^{-1}\left(\frac{\sin a}{\sin x}\right) dx$$
 ----[I a-3-2] (a は任意の実数)

$$\frac{\sin a}{1^4} + \frac{\sin 3a}{3^4} + \frac{\sin 5a}{5^4} + \frac{\sin 7a}{7^4} + \cdot \cdot = \int_0^\infty \left(\frac{x^2}{4}\right) \tan^{-1} \left(\frac{\sin a}{\sin x}\right) dx ----[I a-4]$$
(a は任意の実数)

$$\frac{\sin a}{1^4} + \frac{\sin 3a}{3^4} + \frac{\sin 5a}{5^4} + \frac{\sin 7a}{7^4} + \cdot \cdot = \int_0^\infty \frac{\sin a \cdot x^3 \cdot chx}{6(ch2x - cos2a)} dx$$
 -----[I a-4-2] (a は任意の実数) 注意:この式は[Ia-4]と本質的に同値と考えられる

$$\frac{\cos a}{1^5} + \frac{\cos 3a}{3^5} + \frac{\cos 5a}{5^5} + \frac{\cos 7a}{7^5} + \cdot \cdot = \int_0^\infty \left(\frac{x^3}{24}\right) \log \left(\frac{\text{chx} + \cos a}{\text{chx} - \cos a}\right) dx$$
 -----[I a-5]

これら青色式のものが得られた。これらはゼータの非明示の特殊値に関係するものとなっている。

例えば一番最後の[Ia-5]は、一次の保型形式ゼータ L (χ , s) から生じる様々な実 2 次体ゼータ (ζ (s) も含まれる) の s=5 の非明示特殊値を含んだ式となっている。

よって、任意の実数 a で成り立つこれらの式たちは豊かな内容をもっている。

なお、今回の式も、Wolfram Alpha や Excel マクロを使っての数値検証で正しいことを確認している。

さてここで、変数定数倍-積分定理とそこから得られる系Ⅱを示しておく。

なお系 I もあり、それはこれまで "補題 I " としていたが ($\frac{ゼータの香りの・・(その328)}{}$)、変数定数倍 -積分定理から自然に出てくるものなので、それも今後 "系 I " と表現し直すことにする。

<変数定数倍−積分定理>(この頁で証明。名前はまだ付けていない)

任意の実関数 F(x) に対し $0\sim\infty$ の範囲で積分した結果が有限の値となる場合、次の関係が成り立つ。ここで c は、c>0 の実定数である。

$$\int_0^\infty F(cx)dx = (1/c) \int_0^\infty F(x)dx$$

<系Ⅱ>

任意の実関数 F(x) に対し $0\sim\infty$ の範囲で積分した結果が有限の値となり、且つ xF(x) と $x^2F(x)$ が $x\to\infty$ のとき 0 に収束する場合、次の関係が成り立つ。ここで c は、c>0 の実定数である。

$$\int_0^\infty x^2 F''(cx) dx = (2/c^3) \int_0^\infty F(x) dx$$

注記: F''(x)はF(x)を2回微分したもの。

さて、今回導出した[Ia-4]の証明を簡潔に示しておく。この系IIを使って証明する。

$$\frac{\sin a}{1^4} + \frac{\sin 3a}{3^4} + \frac{\sin 5a}{5^4} + \frac{\sin 7a}{7^4} + \cdot \cdot = \int_0^\infty \left(\frac{x^2}{4}\right) \tan^{-1} \left(\frac{\sin a}{\sin x}\right) dx ----[I a-4]$$
(a は任意の実数)

< [Ia-4]の証明 >

<u>「ゼータの香りの・・(その307)」</u>で提示した深フーリエ級数[5]を用いる。そこではxの範囲は周期で限定していたが、その必要はなくxは任意の実数とできる。

$$\frac{\sin x}{e^a} + \frac{\sin 3x}{3e^{3a}} + \frac{\sin 5x}{5e^{5a}} + \frac{\sin 7x}{7e^{7a}} + \cdot \cdot = (1/2)\tan^{-1}\left(\frac{\sin x}{\sin a}\right)$$
 ----[5]
 (x は任意の実数, a は a > 0 の任意の実数)

両辺に a² を掛けて、次を得る。

$$\frac{a^2 \sin x}{e^a} + \frac{a^2 \sin 3x}{3e^{3a}} + \frac{a^2 \sin 5x}{5e^{5a}} + \frac{a^2 \sin 7x}{7e^{7a}} + \cdot \cdot = \left(\frac{a^2}{2}\right) \tan^{-1}\left(\frac{\sin x}{\sin x}\right)$$

両辺をaについて0~∞まで積分して、次となる。

$$\int_0^\infty \left(\frac{a^2 \sin x}{e^a} + \frac{a^2 \sin 3x}{3e^{3a}} + \frac{a^2 \sin 5x}{5e^{5a}} + \frac{a^2 \sin 7x}{7e^{7a}} + \cdot \cdot \right) da = \int_0^\infty \left(\frac{a^2}{2} \right) \tan^{-1} \left(\frac{\sin x}{\sin x} \right) da$$

左辺は一様収束の点から項別積分できて、整理して次の[A]となる。

$$\frac{\sin x}{1} \int_0^\infty \frac{a^2}{e^a} da + \frac{\sin 3x}{3} \int_0^\infty \frac{a^2}{e^{3a}} da + \frac{\sin 5x}{5} \int_0^\infty \frac{a^2}{e^{5a}} da + \cdot \cdot = \int_0^\infty \left(\frac{a^2}{2}\right) \tan^{-1} \left(\frac{\sin x}{\sin x}\right) da \quad --[A]$$

さて、 \mathbf{X} I を使いたい。 $\mathbf{F}(\mathbf{a}) = 1/\mathbf{e}^a$ とおくと、次のようになることに注意する。

$$F(a) = 1/e^a$$
, $F'(a) = -1/e^a$, $F''(a) = 1/e^a$

上式[A]の左辺の各積分に系Ⅱを適用して、次を得る。

$$\frac{\sin x}{1^4} \int_0^\infty \frac{1}{e^a} da + \frac{\sin 3x}{3^4} \int_0^\infty \frac{1}{e^a} da + \frac{\sin 5x}{5^4} \int_0^\infty \frac{1}{e^a} da + \cdot \cdot = \left(\frac{1}{2}\right) \int_0^\infty \left(\frac{a^2}{2}\right) \tan^{-1} \left(\frac{\sin x}{\sin a}\right) da$$

ここで $\int_0^\infty rac{1}{\mathrm{e}^a}\mathrm{d}a$ は 1 だから左辺はすっきりし、(右辺も整えて) 結局、次のようになる。

$$\frac{\sin x}{1^4} + \frac{\sin 3x}{3^4} + \frac{\sin 5x}{5^4} + \frac{\sin 7x}{7^4} + \cdot \cdot = \int_0^\infty \left(\frac{a^2}{4}\right) \tan^{-1}\left(\frac{\sin x}{\sin x}\right) da$$
(x は任意の実数)

xとaを置き換えても本質はなにも変わらないから、そのようにして目標[Ia-4]に到達した。

$$\frac{\sin a}{1^4} + \frac{\sin 3a}{3^4} + \frac{\sin 5a}{5^4} + \frac{\sin 7a}{7^4} + \cdot \cdot = \int_0^\infty \left(\frac{x^2}{4}\right) \tan^{-1} \left(\frac{\sin a}{\sin x}\right) dx ----[I a-4]$$
(a は任意の実数)

終わり。

このようにして導出できた。今回の他式も同様にして導出できる。 証明のポイントは、[5]の両辺に a²を掛けて無理やり系IIが適用できる形にもっていく点にある。

最後に、想うことや気付いた点など述べておく。

●[Ia-3-2]と[Ia-4]を並べよう。

$$\frac{\sin a}{1^2} + \frac{\sin 3a}{3^2} + \frac{\sin 5a}{5^2} + \frac{\sin 7a}{7^2} + \cdot \cdot = \int_0^\infty \left(\frac{1}{2}\right) \tan^{-1}\left(\frac{\sin a}{\sin x}\right) dx$$
 ----[I a-3-2]

$$\frac{\sin a}{1^4} + \frac{\sin 3a}{3^4} + \frac{\sin 5a}{5^4} + \frac{\sin 7a}{7^4} + \cdot \cdot = \int_0^\infty \left(\frac{x^2}{4}\right) \tan^{-1} \left(\frac{\sin a}{\sinh x}\right) dx ----[Ia-4]$$
(a は任意の実数)

左辺の a にいろいろな値を代入することで、 $L(\chi, s)$ の s が 2 や 4 のケースの様々な虚 2 次体ゼータの特殊値が飛び出してくる。虚 2 次体ゼータの代表選手は L(s) である。

よって、上式は深い内容を秘めた式なのだが、とにかく右辺がシンプルで綺麗である。また二式で積分内の 形が似ている! こんなところにも保型性が・・? [I a-3-2]と[I a-4]で a に $\pi/2$ を代入すると、左辺はそれぞれ L(2)、L(4)となる。 これらが無理数かどうかいまだ知られていない。

さて、右辺の積分の値は無理数だろうか?

もし「右辺の積分の値は、sina が 0 にならない任意の a で無理数となる!」などとなれば、L(2)、L(4) のみならず、 $L(\chi,s)$ の無数の虚 2 次体ゼータにおける s=2, s=4 の非明示特殊値が全て無理数!!となって、この方面の研究が一挙に進展する。しかし証明は困難であろう。たぶん超越数なのだろうけれども。。

●一つ上の二式の左辺は、Li₂(x)とかLi₄(x)の多重対数関数(ポリ対数関数)の形に似ている。

$$Li_2(x) = \frac{x}{1^2} + \frac{x^2}{2^2} + \frac{x^3}{3^2} + \frac{x^4}{4^2} + \cdot \cdot$$

$$Li_4(x) = \frac{x}{1^4} + \frac{x^2}{2^4} + \frac{x^3}{3^4} + \frac{x^4}{4^4} + \cdot \cdot$$

それは、今回の青色式すべてにおいて同じようなことがいえる。多重対数関数は、べき級数つまりはフーリエ級数の形になっているから、なにか関係がありそうである。

●[Ia-3-2]と[Ia-4]の積分内に tan-1がある。じつは tan-1x は<u>加法定理</u>が成り立つ。それは公式集に載っている(「数学公式 II」(岩波書店) など)。

加法定理と聞くだけで、いろいろと妄想が湧き上がる・・。背後になにか理論が控えているのかもしれない。

● 次の式も眺めたい。

$$\frac{\cos a}{1^3} + \frac{\cos 3a}{3^3} + \frac{\cos 5a}{5^3} + \frac{\cos 7a}{7^3} + \cdot \cdot = \int_0^\infty \left(\frac{x}{4}\right) \log \left(\frac{\text{chx} + \cos a}{\text{chx} - \cos a}\right) dx \quad -----[I a - 2]$$
(a は任意の実数。cosa は cos(a) のこと)

$$\frac{\cos a}{1^5} + \frac{\cos 3a}{3^5} + \frac{\cos 5a}{5^5} + \frac{\cos 7a}{7^5} + \cdot \cdot = \int_0^\infty \left(\frac{x^3}{24}\right) \log \left(\frac{\text{chx} + \cos a}{\text{chx} - \cos a}\right) dx$$
 -----[I a-5]

これらも綺麗である。

右辺の \log に着目。公式集にあるものと本質的に同じ公式 $\sinh^{-1}\left(\frac{b}{a}\right) = \left(\frac{1}{2}\right)\log\left(\frac{a+b}{a-b}\right)$ $\left(\left|\frac{b}{a}\right| < 1\right)$ を使うことで、 \log は \sinh^{-1} に変換できる。そして公式集の別頁を見ると、 \sinh^{-1} x にも加法定理がある。

2024.6.23 杉岡幹生

<参考文献>

・「数学公式Ⅱ」(森口・宇田川・一松、岩波書店)